

西洋建築史第1回

序+ 「建築」の語源+ オリエント世界の建築

中島 智章

序.「建築の語源」

建築(当初は「造家」も) architecture, architect(英) Baukunst, Baukünstler, Architektur, Architekt(独)
architecture, architecte(仏)、architettura, architetto(伊)、arquitectura, arquitecto(西)・・・

architectura, architectus(羅) architectonice techne, architecton(希) arche(原理、頭)+ tecton(工匠、職人)

DE ARCHITECTVRA, LIBRI DECEM 第1書 [fabrica(opus), ratiocinatio] [quod significatur, quod significat]
[ordinatio(taxis), dispositio(diathesis), eurhythmia, symmetria, decor, distributio(oikonomia)]

[aedificatio, gnomonice, machinatio] [ratio × 3= firmitas, utilitas, venustas]

『建築十書』邦訳 ウィトルウィウス：『ウィトルウィウス建築書』、森田慶一訳、東海大学出版会、東京、1979年。

Ancient: 古代の=西ローマ帝国滅亡まで、Medieval: 中世の=東ローマ帝国滅亡まで、Modern: 近代の=それ以降

Antiquité: 古代、Moyen-Âge: 中世、Époque moderne=フランス革命まで、Époque contemporaine=それ以降

古代ギリシア・ローマ文明(「建築」の故郷)とその理想化された姿「古典古代」を奉じた時代・地域の建築を取扱う

欧州の中でもローマ帝国の版図が及んだことのある地域(ラテン世界+独英など)の古代、中世、近世の建築
日本建築学会編：『三訂版 西洋建築史図集』、彰国社、東京、第2版、1983年。

鈴木博之編：『図説年表 西洋建築の様式』、彰国社、東京、1998年。

初田亨：『模倣と創造の空間史』、彰国社、東京、1999年。

中島智章他7名：『図説テキスト 西洋建築史』、彰国社、東京、2003年出版予定だが・・・。

1.土の建築と石の建築

日乾煉瓦建築(メソポタミア建築、エジプト世俗建築)と石造建築(エジプト宗教建築、エーゲ海建築、希建築)

木造建築 木材は希少 レバノン杉など エジプトでは家具の材料として貴重な輸入材

2.古代メソポタミア建築

都市国家 世界帝国：シュメール人(ウルなど) アッカド人 バビロニア王国 ヒッタイトなど アッシリア

新バビロニア王国・メディア王国・リディア王国(クロイソス) アケメネス朝ペルシア アレクサンドロス大王

宮殿建築 サルゴン2世宮殿(ア)、バビロン市門(新バ)、ペルセポリスの宮殿跡・百柱の間(ペ)

宗教建築 ジグurat(バベルの塔) エジプト建築への影響・・・「王宮ファサード」とよばれる凹凸周壁

3.古代エジプト建築

先王朝時代、初期王朝時代、古王国、第1中間期、中王国、第2中間期、新王国、第3中間期、末期王朝時代

貴族墳墓(マスタバ) ネテリクヘト(ジェセル)王のサッカラ葬祭建築複合体=階段ピラミッド(イムヘテブ)

スネフェル王のピラミッド群(メイドゥムのピラミッド、屈折ピラミッド、赤ピラミッド=四角錐形の確立)

ギザの三大ピラミッド(クフ、カフラー、メンカウラー)=構造の変化、用途は不明(公共事業説もあり)

神殿建築 パイロン(塔門)、中庭、多柱室、至聖所 奥へと狭まる、植物に想を得た柱、ヒログリア(聖刻文字)

ハトシェプスト女王葬祭殿、カルナック神殿、ルクソール神殿、ラムセウム(ラムセス2世)、アブシンベル神殿

プトレマイオス朝、属州時代へ継承=フィラエ・イシス神殿、エドフ・ホルス神殿、デンデラ・ハトホル神殿

宮殿建築 世俗建築は日乾煉瓦 第18王朝アメンヘテブ3世のマルカタ王宮 寝室天井画に真実の女神